KITA ニュース

KITA
Kitakyushu International Techno-cooperative Association

NO.41号
July 2014

目 次

2頁　理事会・評議員会開催、理事長挨拶
3頁　中長期指針及びH25年度事業報告・H26年度事業計画
4頁　技術協力部長・新旧交代あいさつ
5頁　国際研修
9頁　海外での活動状況
　●アブダビ●サウジアラビア●ベトナム
10頁　NEWS&TOPICS
　●新生KME（北九州メンテナンス技術研究会）
11頁　●国際親善報告
12頁　●帰国研修員からの便り

スピナマートさくら通り店での研修

北九州生活科学センターでの食品検査実習

～食品の安全確保はみんなの願い～

「食品衛生のための行政能力強化」の研修コースは、食品の安全確保に影響を及ぼす病原微生物や自然毒などの問題と栄養問題から始まり、食品関係業界に於ける衛生向上対策など幅広い問題に関して食品の生産から消費に至るまで各国の課題解決を目的に推進しています。詳細は8頁をご覧下さい。

公益財団法人北九州国際技術協力協会

R100

平成25年度／平成26年度理事会・評議員会開催

1. H25年度第2回通常**理事会**・第1回臨時**評議員会**
   (1) 平成25年度第2回通常**理事会**
   ①主要議題：平成26年度事業計画並びに収支予算書の承認
   ②日　　時：平成26年**3月19日**(水) 12:30～14:00
   ③場　　所：千草ホテル
   (2) 平成25年度第1回臨時**評議員会**
   ①主要議題：a.平成26年度事業計画並びに収支予算書の承認
   b.理事、評議員の改選
   ②日　　時：平成26年**3月27日**(木) 12:30～14:00
   ③場　　所：千草ホテル
2. 平成26年度第1回通常**理事会**・定時**評議員会**
   (1) 平成26年度第1回通常**理事会**
   ①主要議題：平成25年度事業報告並びに決算報告の承認
   ②日　　時：平成26年**6月2日**(月) 12:30～14:00
   ③場　　所：千草ホテル
   (2) 平成26年度定時**評議員会**
   ①主要議題：a.平成25年度事業報告並びに決算報告の承認
   b.理事、評議員の改選
   ②日　　時：平成26年**6月16日**(月) 17:00～18:00
   ③場　　所：西日本工業倶楽部

理事長挨拶
― 平成25年度事業報告・H26年度事業計画に際し ―

我が国の将来に大いに関わりを持つ東南アジア、中東、アフリカ、東ヨーロッパ等の情勢が目まぐるしく変化しています。この日本を取り巻く環境変化に十分留意しつつ、政府指針のもとで、JICA及び北九州市との連携を取りながら、事業展開を進める必要があります。KITAは日本の良さを海外に展開している活動の下支えをしています。北九州から発信できる、そして北九州の特質を活かした活動こそ我々が目指すべきものであります。

そのような観点に立って、KITAは中長期的な視点の元でKITAの本格的な体質変革の1歩を踏み出し、その4年目に入ります。平成23年1月に理事長就任以来、基本指針として言葉にしてまいりました『KITA財産づくり』並びに『‘KITAらしさ’と‘北九州立地の強み’追求』、この2点を、平成25年度のスタートに際しKITA中長期指針として改めて確認しました。この指針に沿ってさらなる研鑽を重ねてまいります。

平成25年度事業実績は、お陰様で事業規模が縮小するなかで一定の黒字を収めることが出来ました。

平成26年度は事業環境が厳しくなる中で、この中長期指針の元、5つの下記の事業方針を平成25年度に引き続き継続します。

1. 海外ニーズ調査発掘と海外ネットワーク構築の一層の推進
2. 研修事業・技術協力事業の事業力強化・充実
3. KITA経常収支の黒字体質確立
4. システムインフラ整備3年計画の推進
5. 公益財団法人運営の定着化・・透明性・公正性確保と諸情報の公開

尚、1980～2013年度までの33年間のKITA実績でその主たる事業である研修事業実績は、参加国150ヵ国、累積研修員7,453名となりました。これを更に積上げることの重要さもさることながら、この財産を今後に活かすことはもっと重要であると考えています。

今後とも皆様方の心強いご支援をお願い致します。

中長期指針に沿った5つの事業方針
‥H25年度～H26年度の2年間で下記の5つの方針を推進

上記のKITA中長期指針に基づいて設定した下記の5つの事業方針をH25年度、H26年度の2年間にわたり推進し、H26年度までに実現することとした。

(1)海外ニーズ調査発掘と海外ネットワーク構築の一層の推進
KITA財産づくりの最重要課題として下記3点を推進
1)JICA・北九州市関係部局との連携によるニーズ発掘と共有化
2)海外ニーズ発掘活動とその集約
3)海外研修員ネットワーク(国際人材育成情報データベース活用)の開発と運用開始

(2)研修事業・技術協力事業の事業力強化・充実
事業力の強化・充実に向け関係先との連携確立と計画性の確保
1)KITA内事業間連携・部門間連携のさらなる強化
2)JICA・北九州市関係部局との連携体制強化
3)年次事業計画の策定・実行

(3)KITA経常収支の黒字体質確立
KITA発展の前提となる財務体質向上のために下記を推進
1)KITA収支計画精度向上と中長期見通しの確保
2)KITA内事業部門別採算の改善

(4)システムインフラ整備3年計画の推進
H24年度～H26年度の3ヵ年計画でKITAシステムインフラ整備を推進
1)システムインフラの中核である業務支援システム開発の完成
2)システムインフラの活用拡大と業務支援システム導入教育推進

(5)公益財団法人運営の定着化‥透明性・公正性確保と諸情報の公開
公益財団法人の認定を受けて3年内に新制度運用を安定化

H25年度事業報告

Ⅰ.事業報告

H25年度から開始した上記の5つの事業方針を推進したが、どの事業方針も万遍なく着手し、ほぼ計画に沿った進捗を実現できた。

収支決算においては収益が対予算で未達となったが、収支差額(利益)は予算を達成した。中長期指針に対しても着実な前進をみた1年となった。

Ⅱ.収支実績

経常収益：280,436千円
経常費用：273,607千円

H26年度事業計画

Ⅰ.事業計画

H25年度の実績を踏まえて上記の5つの事業方針をより具体的な計画に詳細化したうえでH26年度での目標達成を目指す。H25年度からの推進においてH26年度目標達成に際し特別な障害は生じていない。H26年度も引き続き努力することにより、ほぼ目的を達成できる見通しである。

Ⅱ.収支計画

経常収益：304,092千円
経常費用：303,520千円

■技術協力部

お世話になりました

藤本　研一

平成26年3月31日付で、技術協力部長を退任しました。

平成23年4月1日以来、3年間技術協力部長を務めました。その間、多くの方々に支えられ、大過なく、職務を全うする事ができました。お礼を申し上げます。

KITAの基本方針の一つである、「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」を技術協力部として如何に具現化するか腐心しました。在任中、この「らしさ」、「立地の強み」を活かして海外ニーズの発掘、海外とのネットワーク構築に努力しました。幸い、技術協力部皆様の努力と北九州市役所並びに関係機関による御支援のお陰で多くの国々とネットワークを構築する事ができました。

ベトナム、タイ等の東南アジア諸国に加え、ロシア及び周辺国、中東諸国、トルコ、台湾等とのネットワークを構築しました。今後、このネットワークを活用した新たな事業展開が期待されます。新事業展開はKITAの財務体質向上に資すると確信します。

事業の展開、事業力の強化・充実には北九州市当局や研修部との連携・情報交換が必要です。関係各位のご支援をお願いする次第です。

平成16年からKITAに勤務しましたので、10年間在籍したことになります。その間、中東諸国を含む、9カ国へ、計43回、出張しました。貴重な経験をさせていただいたことを感謝します。

後任の技術協力部長は麻原伴治氏です。私同様、御支援をお願いします。

KITAの益々の発展を祈念します。

新部長の就任あいさつ

麻原　伴治

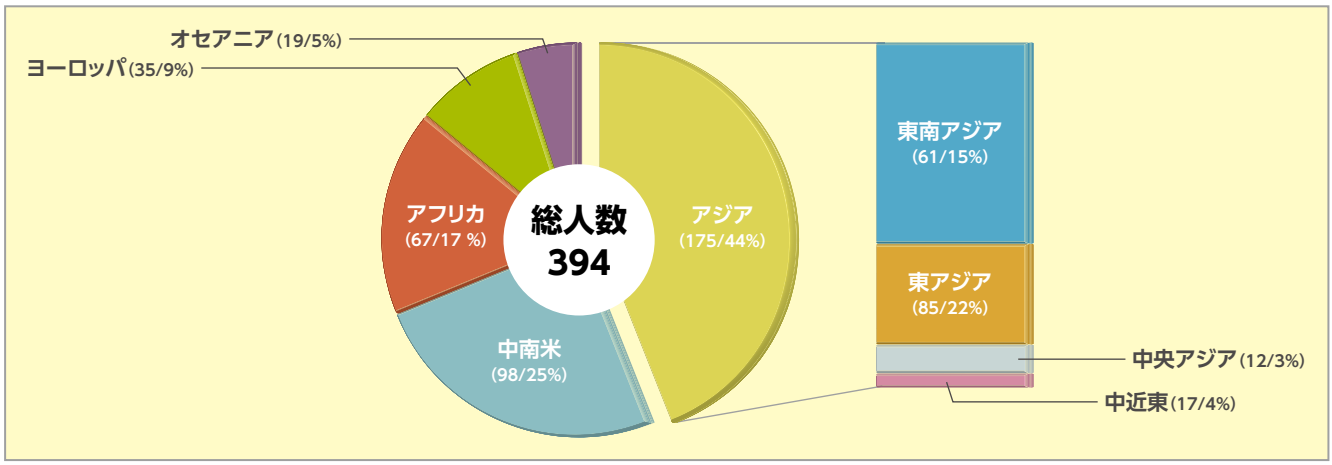
このたび藤本部長の後を受けて技術協力部長を拝命しました麻原です。若輩者ですがよろしくお願い致します。

私は昭和46年7月に新日本製鐵㈱に入社し、八幡製鐵所に配属になって以来、3年間の光勤務がありましたが、これまで40年間をこの北九州の地で過ごしてきました。昨年現役を退くにあたり、もうしばらくは少しでも北九州のためになることをと考えていたところ、KITAの仕事に出合いました。昨年の9月から技術協力部の仕事を手伝い始めて半年が経ちましたが、当初思っていた以上に大変な仕事であると感じています。というのも、技術協力部の仕事はJICAのような強力で安定したバックがなく、毎年個々のプロジェクトの積み上げで成り立っています。とは言え、幸い藤本部長の時代に北九州市の産業経済局や環境局、JETRO、日韓産業協力財団、ROTOBOといった幅広いネットワークができています。このネットワークとの信頼関係を更に発展させ、新しい技術協力部の業務を展開していきたいと思っています。またこれからは、より利益率の高いコンサル的な業務の比重を上げていく必要もあると感じています。そのためには幅広い知見と情報分析力・解析力を持つことが不可欠です。技術協力部のメンバー全員が努力・研鑽し、一丸となってこれに取り組み、新しいKITAの事業基盤を作っていきたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願いします。

1. H25年度下半期に実施されたJICA研修コース（実績）

No.	分類	コース名	研修員人数	コースリーダー（AL or SCL）	平成25年 8	9	10	11	12	平成26年 1	2	3	4
1	環境管理	産業環境対策	11	川崎淳司						■	■	■	■
2		廃棄物管理技術（B）	13	指輪　勤			■	■	■				
3		廃棄物管理技術（C）ベトナム一カ国限定	5	城戸浩三							■	■	■
4		低炭素化のための環境技術	11	矢頭昭治		■	■						
5		コンポスト事業運営（B）	9	城戸浩三				■					
6		環境教育	14	原口清史				■	■				
7	水資源	産業廃水処理技術（B）	6	篠原一久							■	■	■
8		下水道維持管理システムと排水処理技術（B）	10	末田　元						■	■	■	
9		コソボ下水対策能力向上	8	末田　元			■						
10	生産技術・設備保全	生産性向上のための保全管理	8	川崎順一							■	■	■
11		メカトロニクス・ロボット実践技術	8	谷口政隆							■	■	■
12		中南米プロセス工業におけるクリーナープロダクション	8	安部哲夫（福森明人）		■	■	■					
13		ベトナム生産性向上のための実践的経営管理（B）	6	宮本　正								■	
14	新・省エネルギー	インド省エネルギー技術（2）	16	植山高次（尾野春己）						■	■		
15		インド中小企業の省エネルギー技術	10	大和俊介			■						
16		省エネルギー技術と設備診断（A）	7	植山高次（尾野春己）	■	■	■						
17		省エネルギー技術と設備診断（B）	9	植山高次				■	■				
18		省エネルギー政策立案（B）	8	川口健二				■	■				
19		太陽光発電エネルギー技術（B）	16	植山高次（大和俊介）							■	■	■
20		低炭素化社会実現のための発電技術（B）	14	藤井岱輔			■	■					
21		低炭素化社会実現のための発電技術（C）	8	矢頭昭治							■	■	
22		民生部門の省エネルギー推進（A）	10	川口健二（植山高次）		■	■						
23		民生部門の省エネルギー推進（B）	11	川口健二							■	■	
24	職業訓練・保健・支援	職業訓練の運営・管理と質的強化（C）	15	宮本　正						■	■		
25		食品衛生のための行政能力強化	11	中原幸治						■	■		
26		地域活性化研修（日系）	6	三木義男			■						
27		アフリカ企業家育成・中小零細企業活性化（B）	9	三木義男				■	■				

2. H25年度受け入れ研修員数 ●地域別研修員（人員と比率）



左尾電機(株)様　いつも技術研修にご協力頂き有難うございます!

～研修員が馴染みやすい研修先として感謝～

コースリーダー　宮本　正

左尾電機(株)様は、「生産性向上実践技術」のコースでは常に組み込んでいる研修先です。技術研修員は、主に中小企業の経営層や中堅幹部層が派遣されています。トヨタ、TOTO、安川電機などの大手にも観るべき点は多いですが、実学を中心に研修を行う目的には、中堅企業の手作りの実際を学ぶが最適な職場となっています。当社は、パートを主体に155名の従業員で電気システム用のリアクトルを中心に生産されています。汎用的な製品は海外製に移行し、国内で生産するのは多品種少量で短納期品に特化され、品種2,000種、注文1,500件、12,000台/月とのこと。組み込まれた装置はニューヨーク地下鉄に使用されるなど着実な生産活動を行っています。5S;改善提案;QCサークル活動;社内LANと60台のPCで全面情報公開;中期経営計画などで活性化されています。前日までの受注・生産額なども公開し、社長は6年間で安川電機の中国・上海工場を100人規模から1,000人規模へ引き上げられたネアカの実践派です。頼みこんで、午前8時20分からの朝礼から午後5時の終業までの一日間を、講義や現場見学も交えて過ごさせて貰っています。終業後も近くの赤提灯で社員と意見交換＆懇親。研修員は、日本の中小企業のありのままの実態に触れる事が出来て鮮やかな記憶に残り、帰国後の幹部室での掲示写真になることも多く見られます。残念ながら、業務が多忙となり、受け入れには限りが付く様になりましたが、有難く得難い研修先です。今後ともに宜しくお願い致します!

朝礼の見学

研修員を交えて
赤提灯で懇親会

～つながりは時空を超えて～

「環境教育」コース

コースリーダー　原口　清史

途上国においては、都市の集中化や工業化の発達などにより、河川の汚濁や廃棄物埋立地の悪臭など環境問題が深刻な状況にあります。このようなことから、市民など社会全体の環境意識の向上や環境課題に対処する関係者の能力を高めるために、平成25年10月30日から約1ヶ月間の日程で各国、各自治体の担当官を対象に「環境教育コース」の研修を実施しました。アジア、アフリカ、中南米など世界各国から14ヶ国16名が参加し、小中学校での環境教育の取組や地域社会での環境問題への取組など、講義や実習のほか、出来るだけ研修員自身が体験を通じることのできるカリキュラムを策定しました。

今回は2回目ですが、各国、自治体とも環境問題解決の鍵となる環境意識の向上には力を入れており、財政負担が少なくて効果が表れやすいため、途上国にとって取り組みやすい研修コースの一つと言えます。環境教育の柱として、①リーダーの育成、②教育プログラム、③教育施設、④ネットワーク、が重要と言われており、これらの役割や研修員の周りにあるものをどのように活用するかなど、考え方の構築に向けての理解を進めるようにしました。

講師からの充実した講義や実習はもちろんですが、水俣市での水俣病のビデオ鑑賞や語り部の講演では涙ぐむ人や小学校では生徒達が一緒に給食した後も、なごりおしそうに研修員にまとわりついたり、市民センターでは住民と身ぶり手ぶりでお互いに意思疎通を図ろうとするなど、このように人と人との関係を重視する環境教育コースならではのシーンが随所に見られました。平和教育、人権教育と並ぶ環境教育が普遍的である以上、我が国はもちろんですが、世代や国境を超えて広がっていくことを切に願うものです。

「環境ボランティア若松秋桜会の皆様と」

日本の歴史と文化そして復活の探究

「産業廃水処理技術(B)」コース

コースリーダー　篠原　一久

「産業廃水処理技術(B)」はベトナム1か国の2か月間の研修コースで本年度が3年目でした。研修員は全員30代前半と若く、各地区の行政管理職として活躍していますが、各自問題点を抱えており、今回の講義や企業研修で課題へのヒントなり解決策を求めて研修に参しておりました。研修員は、日本の環境歴史や公害対策・復活(処理技術)等への取組みを学び、産業廃水処理技術力向上に向けた講義、体験学習、事例研究並びに不明・疑問点への質問など真摯な態度で臨んでいました。講師及び訪問企業の先生方からは熱意を持った講義と誠意ある回答を頂き、「グラニュール汚泥方式」や「ペガサス方式」の脱窒作用、「オゾン方式」による脱色・脱臭作用及び「浄化槽」の高度処理へ強い関心を示すなど、課題解決へのヒントを得る成果を挙げたものと思います。

研修の合間、ベトナム料理(生春巻き＆フォー:女性陣手料理)での昼食会、研修員と私の誕生会及びA/P発表会へのNHK取材などサプライズも多数ありました。また、凛と咲く日田の紅白梅や京都の桜吹雪で気分も高揚し、世界遺産の鹿苑寺(金閣)、清水寺、祇園では日本の歴史と文化に触れ、水俣病資料館並びに広島原爆資料館では悲劇＆惨劇に涙し、新幹線に歓喜するなど一服の清涼剤を織り交ぜた研修でした。

ベトナム料理(生春巻き＆フォー:女性陣手料理)

最後に、日本での経験・体験が自職場の環境問題解決や改善への足がかりとなり、更にはベトナム国の環境保護結実に向けた活躍をされることを心から願っています。

幼子へのお土産:廃紙での紙バック作成(環境ミュージアム)

初めての体験学習:有機廃水処理試験(日鉄住金環境(株))

新企画インドー般産業向け省エネ技術コース好評裏に終了

「インド省エネルギー技術(2)」コース

コースリーダー　植山　高次、大和　俊介

インド国別省エネ研修コースは産業向け2コースと中小企業向け1コースの3コースを毎年開催して来ました。スタート以来5年を経過し、産業向けコースの参加者が行政官・コンサルタント中心から、企業からの研修員中心に変わり、より具体的な技術の提供が求められる様になりました。そこで、産業向けの2コースをそれぞれ電力業界向けと一般産業向けとに特化することにしました。

一般産業向けの研修内容は(1)各業界に共通な省エネ技術、(2)設備の安定稼働技術としました。(2)は保全の重要性を認識して頂くことを目的とした内容です。

一般産業向けコースは2012.6.27～8.3と2014.1.15～2.22と2回実施しました。前者は特化した最初のコースでしたが研修員の評価は芳しいものでは有りませんでした。原因は研修員が自分の所属する産業固有の技術のみを求めたのに対し、コース内容が全産業に共通な省エネ技術を提供するものであったからです。産業固有の技術は会社または業界が個別に有償で得るべきもので、不特定の産業が参加する研修コースには相応しくない科目です。

そこで今回は参加者から操業技術者を排し、各産業の省エネ担当及び設備担当の技術者を招き、カリキュラムにより専門性の高い科目を増やして2013年度の研修を実施しました。

結果は、週報・質問票・評価会を見る限り、研修員の満足度は劇的に高まり、アクションプランの出来も上々でした。次年度もカリキュラムに工夫を重ね、更に良いコースにしたいと考えています。

より専門性の高い業界共通技術の強化
回転機レーザ芯出しの実習
(高田工業所)

理解を深める為の演習・実習をふんだんに盛り込むポンプ効率測定実習
(コロコートジャパン)

食品の安全確保はみんなの願い

「食品衛生のための行政能力強化」コース

コースリーダー　中原　幸治

当研修コースは、研修参加3ヶ国（チリ、クック諸島、モザンビーク）4名の少人数コースとして本年1月半ばに始まり2月末まで行なわれました。しかし、研修に参加された3か国は人口、気候、財政状況や食品衛生に関係の深い主食などは大きく異なる生活環境と食文化を持つ国々でした。

このコースは、食品の安全確保に影響を及ぼす病原微生物や自然毒などの問題や栄養問題に始まり、食品関係業界の衛生向上対策など幅広い問題に関して、食品の生産から消費に至る各国の課題解決に対応するものとして計画しました。

研修では、日本の食品安全に関係する法律体系・行政の役割に関する講義や食品に係る関係知識、卸売市場・スーパーマーケット・食肉工場等実際に食品に係る現場での衛生的な取扱い等の見学や講義を通して行いました。

研修員は、関連する各国の課題を解決するため熱心にメモを取り、また多くの質問が出されたことが印象に残りました。これら研修員の熱心な研修に取り組む姿勢は、各自のアクションプランとしてまとめられました。この幅広い観点から構成する本研修は、産業医科大学や国、地方公共団体等の協力を得て、また、全期間を通して一方ならぬ協力をいただいたコーディネーターの協力で実施することができたものです。この紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。

第3回目を迎える平成26年度の本研修は、多くの開発途上国の気候に合わせまだ暑さの残る9月末からスタートできるように時期を変更していただけることになりました。

スピナマートさくら通り店での研修

北九州生活科学センターでの食品検査実習

多民族国家ブラジル社会で地域改革活動する研修員に感動!!

「地域活性化（日系研修）」のフォローアップ

コースリーダー　三木　義男

JICA九州が募集する「日系研修員受入事業」にKITAとして平成19年度から応募し、計6回、29名が参加して実施しました。今般、研修の一つの節目として、帰国後のアクションプラン活動のフォローアップを目的として現地訪問しました。ブラジル現地滞在8日間の中で大国ブラジルをほぼ一周する5地域を訪問しました。

その訪問先で全帰国研修員の約7割の方にお会いできました。皆さん、地域の日系社会だけでなく、地域ブラジル住民やブラジル社会の変革を、日本研修で学んだ新しい考え方をベースに活動をされている実態を拝見し、本当に「コースリーダーをしていて良かった」と実感しました。活動事例の一部を紹介しますと、①トメアスーでの「持続可能な第一次産業の形態として注目を集めているアグロフォレストリー（森林農業）」の発祥地として、世界規模への拡大啓蒙活動、②クイアバを始め地域社会と一体化した「日本祭り」の革新的な活動などです。

それから、活動の輪を効率的に広げることを目的として、講演テーマ「地域活性化の原点を探る（副題：人生を強く・楽しく生き抜くために!!）」で、セミナーを行いました。4地域で約220名の方々が参加し、地域活性化の興味の高さを認識しました。

最後に、今回の訪問が、帰国研修員の活動成果報告の場となり、且つ、今後、更なる発展をすることの確信を得ることができ、私にとっても“感謝と感動の旅”となりました。

サンパウロでのセミナー光景（参加者85名）

トメアスーでのアグロフォレストリー（森林農業）の現地視察

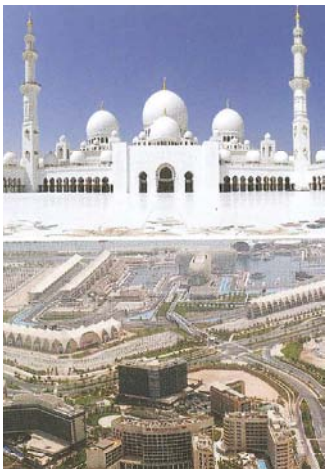
砂漠の中の製鉄所

副理事長 工藤 和也

1月末から2月初めにかけて中東協力センターのプロジェクトに参加しました。訪問したのはアブダビとサウジアラビアの製鉄所です。この時期の中東は気温が20度前後で一年を通じても快適な季節です。両国には国営の製鉄所がそれぞれ一つあり、中東の鉄鋼業界をリードしています。

中東の砂漠に製鉄所が出来た理由は明らかです。中東諸国は現在までオイルマネーで潤ってきましたが、オイルが将来枯渇することは確実でありオイル依存体質から早く抜け出す必要があります。そのための一つの方策として需要が旺盛な鉄鋼製品を自国で生産できる体制を目指しています。

サウジの国営製鉄所のHadeed Steelは、一製鉄所で直接還元製鉄（DRI）プラントを5基有し年間500万トンの還元鉄を生産しています。アブダビのEmirates Steel（ES）はDRIプラントを3基有し年間400万トンの還元鉄を生産しています。溶鉱炉なしで年間400～500万トンの鉄を生産していることは驚異的です。ESは環境対策にも投資しSOX, NOX、ダイオキシンなどの国の基準をはるかにクリアしておりDRIから出るCO2をオイルの掘削時に地下に吹き込む技術を開発しています。電気料金が約2～3円／kwhと安くコスト的に日本の電気炉メーカーにとっても脅威となっています。


イスラム教のモスク

砂漠の中の
製鉄所Hadeed製鉄所

ベトナム南部（ホーチミン市周辺）でビジネス交流支援をスタート!!

技術協力部 宮田 利勝、齋藤 導宣

KITAはこの3年間、北九州市やジェトロ北九州と共にベトナム北部（ハノイ・ハイフォン）地域の企業と北九州地域企業とのビジネス交流の支援を行ってきました。その中で多くの技術交流や経済交流が生まれ、その関係はさらに拡大しており、多くの北九州企業から喜ばれております。

このような取組みをベトナム南部地域にも拡大して欲しいとの北九州企業からの強い要請を受けて、ホーチミン市を中心とした南部地域でのビジネス交流支援事業がいよいよスタートしました。

そこで、2014年3月3日～7日にホーチミン市および近郊での交流候補企業の発掘調査を実施し、「鋳造」「機械部品製造」「機械・プラント製造」「めっき加工」「ゴム加工」「FRP加工」「プラスチック包装袋・容器加工」など様々な業種18社を訪問しました。訪問先では大歓迎を受け、日本企業との技術交流や取引きを熱望していることが伝わってきました。訪問企業各社からは会社や商品の特徴、保有技術・設備などの貴重な情報を入手でき、ビジネス交流の大きな可能性を感じました。

現在、今回の調査で入手した企業情報は北九州の関連する企業へ紹介に回っており、本年度の半ばから後半にかけてベトナム南部地域での商談会を行う予定です。多くの北九州企業の参加を願っております。関心のある企業さんはKITAまでご一報ください。

社訓を日本語で表記
（めっき加工会社）

社長以下出席者ずらり
日本語のわかる社員も
（ゴム加工会社）

NEWS & TOPICS:

東アジア低炭素成長ナレッジ・プラットフォーム昼食会でKITAを紹介

事務局長 藤原 直捷

去る3月6日（木）豪州, カンボジア, 中国, インド, インドネシア, ラオス, マレーシア, ミャンマー, フィリピン, 韓国, ロシア, シンガポール, タイ, ベトナムの以上14カ国の東アジア低炭素成長ナレッジ・プラットフォームの代表者が3月2日から8日まで日本政府外務省に招へいされ、その途中で北九州市八幡大和ロイヤルホテルに集まり昼食会が行われました。

この昼食会にKITAが招待され、日本からはほかに外務省、北九州市環境局環境国際戦略室、IGES（公財　地球環境戦略機関）北九州アーバンセンターなど11名が当昼食会に参加し、KITAからは上野副理事長、藤原の2名が参加しました。

この昼食会の短い時間のなかで参加者一同からKITAの紹介を求められ上野副理事長が英語でKITAを紹介し、ボランティア精神に基づいた国際技術協力活動に対し出席の皆さんから多くの賛同を得ることができました。

各国の出席者に上野副理事長がKITAを説明

『新生KME』

KME事務局 青井 澤海

北九州のモノづくり企業を中心とする任意団体の北九州メンテナンス技術研究会（KME）は、30年を超える長きに亘り、メンテナンスエンジニア育成の場としてユニークな予知保全研究部会、セミナー、講演会等を提供してきました。

地元の大学・企業からそれぞれの分野の専門家が、心血注いで研究或いは開発してきた技術を後進に伝承しゆく、世界に誇るKMEです。設備診断技術のみならず、疲労・強度、腐食・防食技術、溶接技術、トライボロジー、制御技術など「理論と実践のコラボレーション」セミナーは、他には存在しない魅力満載の研究会です。

会員会社が日々増加し、「北九州イノベーションギャラリー（産業技術保存継承センター）」の協賛を得て新たな会場が確保されました。ベストコンディションでの教学が可能となり、これからの「新生KME」が益々存在感を増し、ここに新たなイノベーター出現を期待したいものであります。写真は、新会場（KIGS）での第一回予知保全研究部会の講義風景です。

講師
（豊田利夫先生と安西敏雄先生）

受講生（28名）

KITA人事異動（2013年1月1日～6月30日）

新　任		
研修コースリーダー	井生　幸人	（2014年　2月1日付）
研修コースリーダー	橋本佳珠子	（2014年　2月1日付）
技術協力部長	麻原　伴治	（2014年　4月1日付）
退　任		
技術協力部長	藤本　研一	（2013年3月31日付）

【国際親善報告】～茶道を通して、日本の心を伝える～

茶道裏千家 教授　伊達宗雅さん　インタビュー

聞き手:KITA事務局事務課長 豊田 めぐみ

今回は、長年に亘り、KITA国際親善プログラムにおいて、海外からの研修員にボランティアで茶道のご指導をして頂き、研修員の日本文化体験に大いに貢献してくださっている茶道裏千家 教授　伊達宗雅さんにインタビューしました。

－海外研修員への茶道指導のきっかけは？

「28年程前、KITAでは、設立母体である北九州青年会議所の方々が研修員を自宅に招いて日本文化の紹介をされていて、私は、同会議所の方のご縁で、気軽に『お茶を一服差し上げる』気持ちで参加させて頂いたのがそもそもの始まりですが、修道している茶道裏千家の家元の講話の中で、スローガンとして『一碗からピースフルネスを』を掲げ、共に一碗のお茶を頂戴することで心開かれていくことを望まれ、世界の平和への懸け橋に、ひいては日本文化の懸け橋となれるよう、修道者としての心構えを示されたことに感銘を受け、私も何かお役にたてることがあればとの思いからでした。」

－海外研修員への茶道指導に当たり、特に気をつけていることは？

「一期一会の境地です。研修員の皆さんにとって、慣れない異国での研修の中で、KITA親善プログラム『西日本工業倶楽部の夕べ』での一盌が思い出深い一服になり、また、束の間の心和む時間となればと思っています。席全体のバランス、季節時候、大きなニュースなど、その日につながる思いを限りある道具の中で取り合わせをしています。茶の文化は日本の風土によって確立されたものですので、そのことを大切に伝えたいと思っています。和敬清寂の意味と心構えを私共亭主側も毎回実践を心掛け、接しさせて頂く学びの場とさせて頂いています。茶道指導後は、例え夜遅くなっても、必ずボランティアメンバーで意見交換会をします。また、季節によって、参加数によっての対応は都度つどKITA事務局の方へお尋ね致します。そのことがKITA事務局と茶道指導担当者レベルで意識も繋がり、研修員の方へより良いひと時を提供できるのではないかと思っています。」

－茶道を通じて伝えたい日本文化の良さは？

「一座建立(注1)です。お茶席にかかわらず、研修員の受け入れには、国同士の手立てであるとはいえ、其処に携わっておられますのは、全てお人方です。出国前からの準備時点から、受け入れる側のそれぞれの方々がこのような気持ちで接することで、KITAの組織も成り立ち、研修員も喜ばれて自国に帰られ、各自国の為にその智慧を使われることを期待しています。お茶にとどまらず、この会に関与する関係者皆の気持ちが同じなのだということを伝えたいと思っています。美術的な美しさや鑑賞は美術館でもできるかもしれませんが、気持ちというものは生身の人間同士でなければなかなか伝わりにくいのではないかと思います。」

－国際交流に関して今後取り組みたいこと、あるいは今後の目標は？

「KITA組織の皆様の端役になれます事が研修員の皆さんへそして世界へつながっていると思っています。大げさなことは何もできませんが、何らかの形で研修員の皆さんには日本文化の懸け橋に、日本人スタッフの皆さんには研修員との交流の場として日本の良さを再確認、発見して頂く機会になれば良いと思っています。幸い茶道には一通りの日本文化が圧縮され受け継がれております。広く浅く垣間見ていただくには分かり易い伝統文化ではないでしょうか。」

－最後に研修員へのメッセージをお願いします。

「一服のお茶のご縁で、このように長い時間続けてこられましたことを心から感謝しています。知らず知らずのうちに積み重ねられた経験から多くの学びを頂戴していました。日本文化の継承者たちの思いのこもった一盌を服してくださってありがとうございます。『TEA CEREMONY』や『MACCHA』という言葉を日本の思い出とし、帰国してからも時々は思い出して頂けたら充分に幸せです。」

お尋ねする質問に対して、一つ一つ非常に丁寧にお答え頂き、伊達さんの何事にも真摯な姿勢が窺えるインタビューでした。伊達さん、貴重なお時間をありがとうございました。これからも末永く海外からの研修員の日本文化体験にご協力の程お願い致します。

(注1)「一座建立(いちざこんりゅう)」
茶道では、お客さまにできる限りのことをしてあげようと創意工夫します。これにより招いた者(亭主)と招かれた客の心が通い合い、気持ちのよい状態が生まれます。このことを「一座建立」といい、茶道ではとても大切にします。

裏千家淡交会ボランティアの皆様並びに研修員(前列右から2番目が伊達さん)

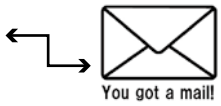
呈茶体験風景

帰国研修員からの便り

「南東欧地域でのクリーナープロダクション振興」を目指して活動する帰国研修員の紹介

コースリーダー　小杉 允

小杉コースリーダー



Mr. Liupcho KARAJANOVSKI
【マケドニア】

Ms Natasa DOKIC
【セルビア】

このコースは不幸な紛争から立ち上がり、EU加盟を最優先の国家目標として立て直しを図るアルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、セルビア、クロアチア、マケドニア旧ユーゴスラビア諸国に対しクリーナープロダクション（CP）導入を支援する目的で設立されました。

いずれも経済発展が遅れ、生産性や環境、インフラ整備に大きな問題を抱えています。技術研修では、日本でのCP取組の経験や中小企業トップの体験を紹介し、CPの浸透には地道な努力が必要なことを認識してもらいました。この研修から帰国後に様々な提案が行われ実行されています。ナターシャやリュプチョさん以外の研修員の計画も、今回の研修で得られた多くの情報知識がベースに生かされています。研修員が地道に自国の発展のために学んだことを生かそうとしている姿は素晴らしいと思います。

Mr. Liupcho KARAJANOVSKIの活動状況

リュプチョさんは、マケドニア旧ユーゴスラビア国立クリーナープロダクションセンターの国家専門員です。CPを普及させる教育の在り方に強い関心を示していました。帰国後所属機関と相談し、すぐにCP推進のワークショップを開催しました。中心産業である鉱業を対象にして今後もワークショップを継続予定です。彼は、特にこれから国の人財になる若い学生や産業人へのCP概念の指導を強く意識していました。日本での経験を伝えるCPセンターでの活躍を期待しています。

Ms Natasa DOKICの活動状況

ナターシャさんは、ベオグラード市の環境保全事業計画を担当する管理者です。彼女はアクションプランの段階からCP普及を狙った環境保護について試算を行い、市への提案書を準備しました。帰国後すぐに所属機関に行動計画と財政計画書を提出し、素早くプロジェクトを準備しながら市議会の認可を待っているところです。特に教育効果を狙ったプロジェクトが印象的です。彼女は研修員のまとめ役を果たすなど良いリーダーシップの持ち主です。「挑戦には絶えず困難が伴うが、教えられたように頑張ります」と語っています。今後の活躍に期待しています。

リュプチョさんの帰国後の
ワークショップ講義風景

〔追 記〕

本年5月にセルビア地方で大洪水が発生しました。
ナターシャさんも被災されましたが、復旧に向け元気に頑張っているとの連絡がありました。

■KITAホームページに帰国研修員便りが詳しく紹介されておりますので下記URLへアクセスし報告資料をご覧下さい。
http://www.kita.or.jp/activities/report.html

KITA ニュース
No.41（第41号）
2014年7月1日発行
（1月・7月発行）

発行：公益財団法人北九州国際技術協力協会
編集発行人：事務局長　藤原 直捷

〒805-0062　北九州市八幡東区平野一丁目1番1号　国際村交流センター4階
TEL：093-662-7171　FAX：093-662-7177　E-mail：info@kita.or.jp

●右記Web site（KITAホームページ）には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。

KITA　検索　カチッ！
http://www.kita.or.jp/